



FOMCの政策決定と足元の米国景気の動向

- 米連邦公開市場委員会(FOMC)は政策金利を据え置き。FOMCは1-3月期の景気減速は一時的との判断を示す。
- 1-3月期の米実質GDPは前期比年率+0.7%へ減速。天候不順や税還付遅れなど一時的要因から民間消費が低迷。
- 1-3月期は民間設備投資や住宅投資が米景気を下支え。企業景況感の改善が設備投資の回復に結び付く。
- 安定した雇用環境を背景に民間消費が底堅さを取り戻せば、個人部門と企業部門の双方が米国景気のけん引役に。

FOMCは市場予想通り、政策金利を据え置き

米連邦公開市場委員会(FOMC)は5月3日(現地時間)、大方の市場予想通り、フェデラル・ファンド(FF)金利の誘導目標を0.75-1.00%で据え置く決定を下しました。

FOMCは1-3月期の景気減速は一時的と判断

FOMCの声明文では、2017年1-3月期の景気減速は一時的と見ており、引き続き緩やかな景気拡大を予想していることが示されました。

米国の2017年1-3月期の実質GDPは、前期比年率+0.7%へ減速しました(2016年10-12月期は同+2.1%、図1)。天候不順や税還付の遅れなどの一時的要因から、民間消費は同+0.3%と低調な結果となりました。

もともと、2017年1-3月期は民間設備投資(同+9.4%)や住宅投資(同+13.7%)が大きく伸びたことで米国景気を下支えました。2016年後半以降の製造業・非製造業の景況感改善が、設備投資の回復に結び付き始めたともみられます(図2)。

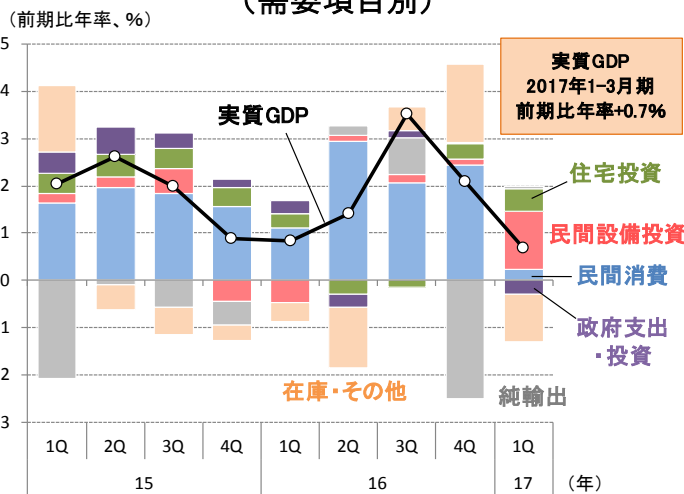
4月の雇用者数は市場予想を上回る増加を示す

5月5日に公表された2017年4月分の米雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比21.1万人増となり、市場予想の前月比19.0万人増を上回りました。また、4月の失業率は4.4%と先月の4.5%から低下し、2007年5月以来の低水準となりました。

今後、一時的要因の剥落や安定した雇用環境を背景に民間消費が底堅さを取り戻せば、個人部門と企業部門の双方が米国景気のけん引役となると期待されます。

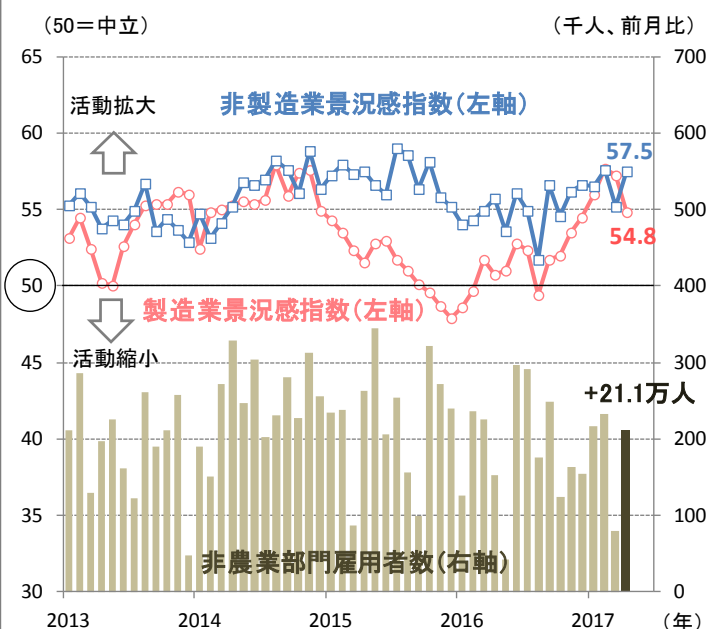
米国景気の安定を背景に、FOMCは今後も段階的に政策金利を引き上げると見込まれます。ブルームバーグ集計の市場予想では、次回6月13-14日のFOMCで0.25%の利上げが実施されるとの見方が大勢となっています。

図1: 米国の実質GDP成長率の寄与度分解 (需要項目別)



(出所)米商務省経済分析局

図2: 米国の企業景況感指数と雇用統計



(出所)米供給管理協会(ISM)、米労働省 (期間)2013年1月~2017年4月